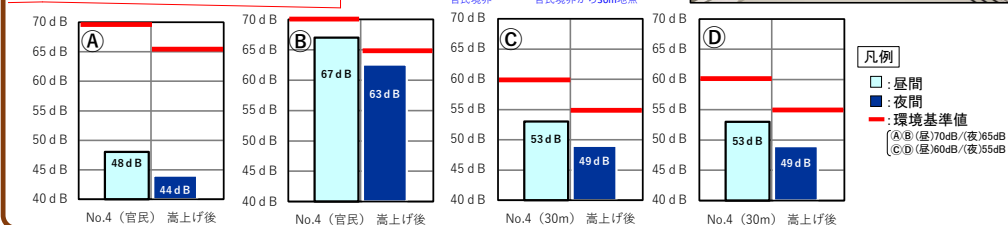
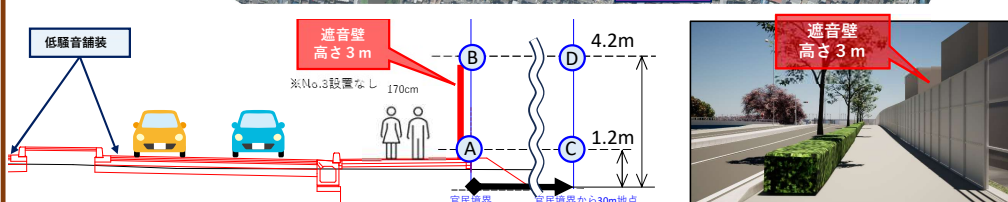
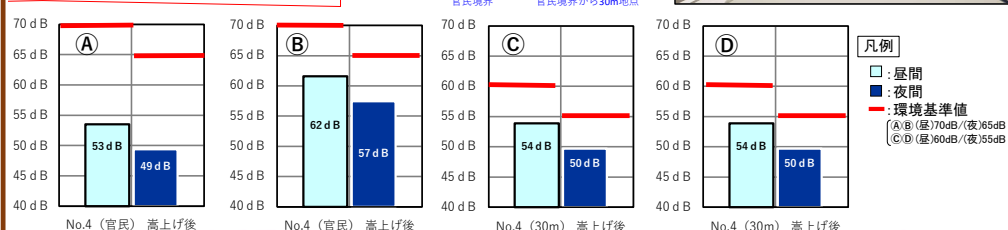
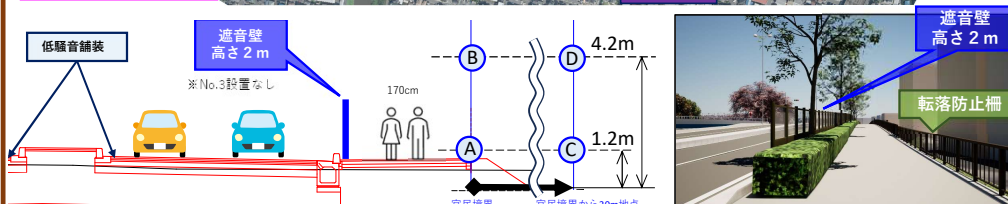
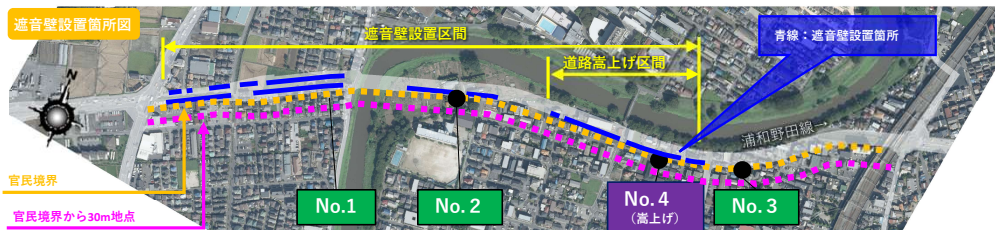


生活環境対策のうち騒音対策について

※表示している内容は素案であり、確定していることではない

- 道路横断手法のアンケート結果を踏まえ、道路を嵩上げた場合の騒音対策を検討しました。
- 騒音予測の結果、歩道境界に高さ2mの遮音壁、官民境界に高さ3mの遮音壁を「設置箇所図」とり設置することで、各予測地点で環境基準値を下回りました。(No.3は遮音壁なし)
- 道路嵩上げ区間のNo.4における各騒音予測結果は、下記のとおりです。



【問合せ先】 埼玉県 越谷県土整備事務所 道路施設担当 越谷市越ヶ谷4-2-82
Tel. 048-964-5223 mail. q645221e@pref.saitama.lg.jp

都市計画道路 浦和野田線 (元荒川工区)

第4回オープンハウス型説明会 概要資料



説明会WEBページ

令和8年10月23日、24日 北越谷地区センター
10月25日 荻島地区センター

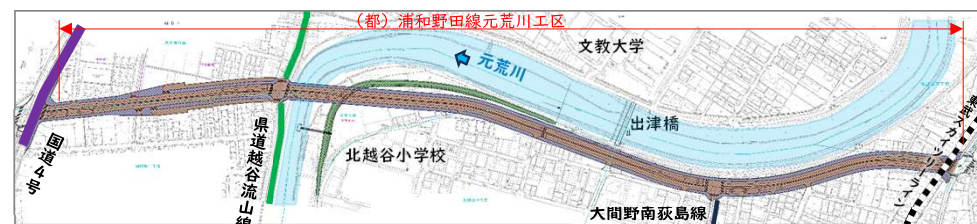
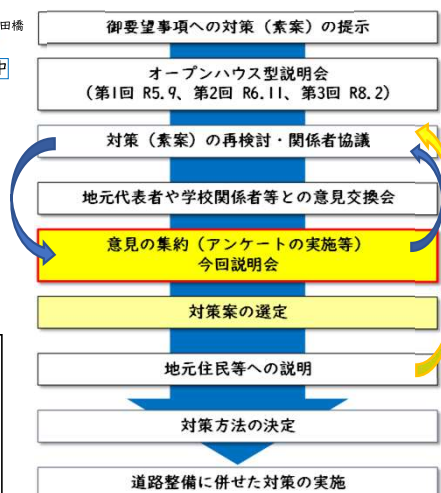
浦和野田線元荒川工区では、地域の方々からオープンハウス型説明会で御意見を伺いながら、整備を進めています。(元荒川工区 進め方参照)

第3回では、騒音対策と出津橋周辺の道路の横断手法に関する対策素案を提示し、御意見をいただきました。

第4回では、前回(第3回)いただいた御意見を踏まえ、騒音対策と出津橋周辺の道路の横断手法を再検討しました。

つきましては、検討結果について御意見いただき、今後対策案の選定を行う際の参考としたいと考えています。

元荒川工区 進め方



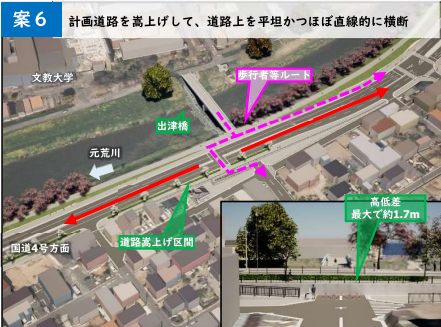
埼玉県 越谷県土整備事務所



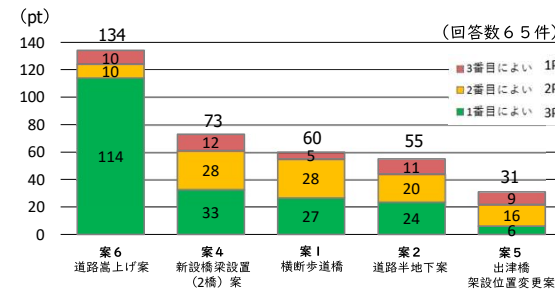
出津橋周辺の円滑な横断手法について

※表示している内容は素案であり、確定していることではない

第3回オープンハウス型説明会において、案6（道路高上げ案）の投票ポイントが最も多い結果となりました。この案6について、スロープの形状等に関する御意見をいただきました。



第3回オープンハウス型説明会アンケート結果



第3回オープンハウス型説明会での御意見（抜粋）

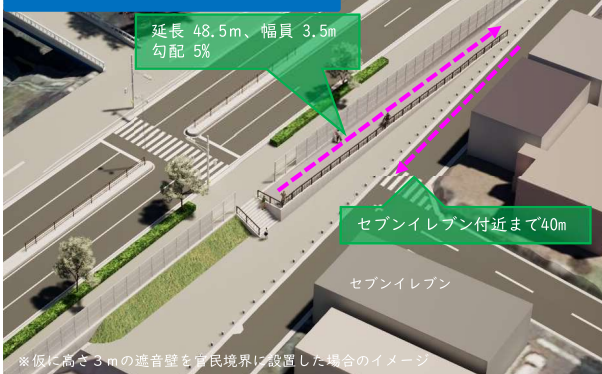
- ・高上げ案はよいと思うが、スロープの線形を直線かL字にした方が通行しやすい。
- ・車イス、高齢者等交通弱者には勾配がきつくなり距離も長くなり厳しいため、改善を求める。
- ・歩道橋もよいが、毎日利用することを考えると案6がよいと感じた。
- ・他の案との比較（移動距離（時間）、維持費、人流の分散 等）をしてほしい。

第9回意見交換会での御意見（抜粋）

- ・スロープを直線的にすると着地点が東側に行き過ぎるため、途中で西側に折り返す箇所を追加してはどうか。
- ・横断歩道から直線的かつ横断歩道と同程度の幅員とした階段を設けると良いと思う。

- ① 最も投票数の多かった案6（道路高上げ案）について、第9回意見交換会等の意見も踏まえ、より利便性等に配慮したスロープの形状及び階段の位置を検討しました。（案6-1、案6-2、案6-3）
- ② 投票ポイント上位の対策素案について、比較検討を実施しました。（道路横断手法の比較検討）

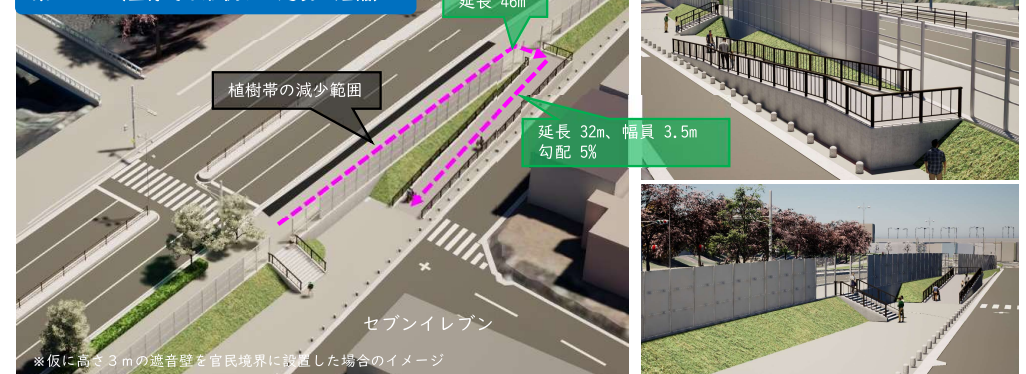
案6-1（直線的なスロープ形状）



- ・階段利用時、横断歩道から**直線的に移動が可能**
- ・スロープに折り返しがないため、**ほかの検討素案よりも通行しやすい**
- ・**スロープを利用してセブンイレブン方面に向かう場合、ほかのスロープ形状よりも距離が長い**
- ・スロープの勾配は、**現状の出津橋に向かう勾配（約4%）よりもやや急**



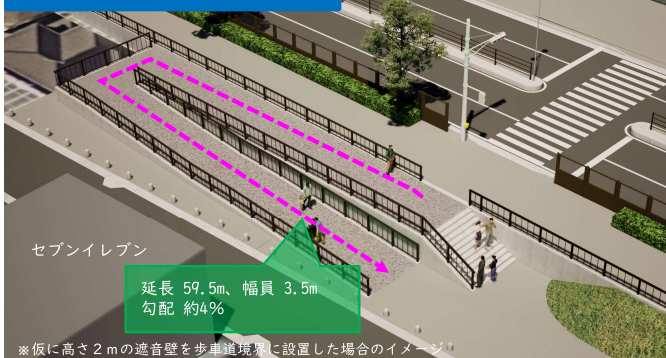
案6-2（直線的な形状かつ延長を短縮）



- ・階段利用時、横断歩道から**直線的に移動が可能**
- ・歩道をスロープとして活用することで、**ほかの検討素案よりもスロープ単体の延長が短い**
- ・**スロープを利用してセブンイレブン方面に向かう場合、案6-3よりも距離が長い**
- ・スロープの勾配は、**現状の出津橋に向かう勾配（約4%）よりもやや急**
- ・歩道利用者とスロープ利用者の錯綜を避けるため、植樹帯の設置範囲が減少

◎: 最も優れる、○: 優れる、△: 相対的に劣る

案6-3（折り返しを1箇所設置）



- ・階段利用時、横断歩道から**ほぼ直線的に移動が可能**
- ・スロープを利用してセブンイレブン方面に向かう場合、**ほかの検討素案よりも距離が短い**
- ・スロープの勾配は、**現状の出津橋に向かう勾配と同程度**
- ・構造上、踊り場を広くすることが可能



道路横断手法の比較検討

- ・比較結果等を踏まえて、対策案を決定します。
 - ・案4は参考比較のため割愛しています。別途、展示パネルを御覧ください。
- ※案6-3想定

分類	項目	案6(道路高上げ案)※	案1(横断歩道橋案)
歩行者・自転車・車いす利用者など	【スロープ】	◎ 約80m (平均約4%)	△ 約152m (8%)
	【階段】	◎ 約33m	△ 約95m
	浦和田線を横断する際の距離(勾配)	◎ 浦和田線と民地側の高低差 (最大約1.7m)	△ 浦和田線と歩道橋の高低差 (最大約5.1m)
	河川横断部における歩行者などの動線	△ 現状と同じ	△ 現状と同じ
安全	浦和田線走行車両との交錯	○ あり (横断歩道)	◎ なし (歩行者等と車両の通行位置分離)
環境・景観	住宅側(騒音・振動)・河川環境への影響	◎ 住: 道路高上げによりやや有利 川: 影響なし(河川内に構造物なし)	○ 住: 道路高上げ案と比較しやや不利 川: 影響なし(河川内に構造物なし)
	桜への影響	◎ 影響なし	◎ 影響なし
自動車	視認性	○ 進行方向の勾配は緩やかであり、 比較的に見通しが良い	△ 上り方面の市道接続部で歩道橋 によって死角ができる
	車両の走行性	○ 勾配が緩やかなため速度低下は軽微	◎ 平坦なため速度低下は発生しにくい